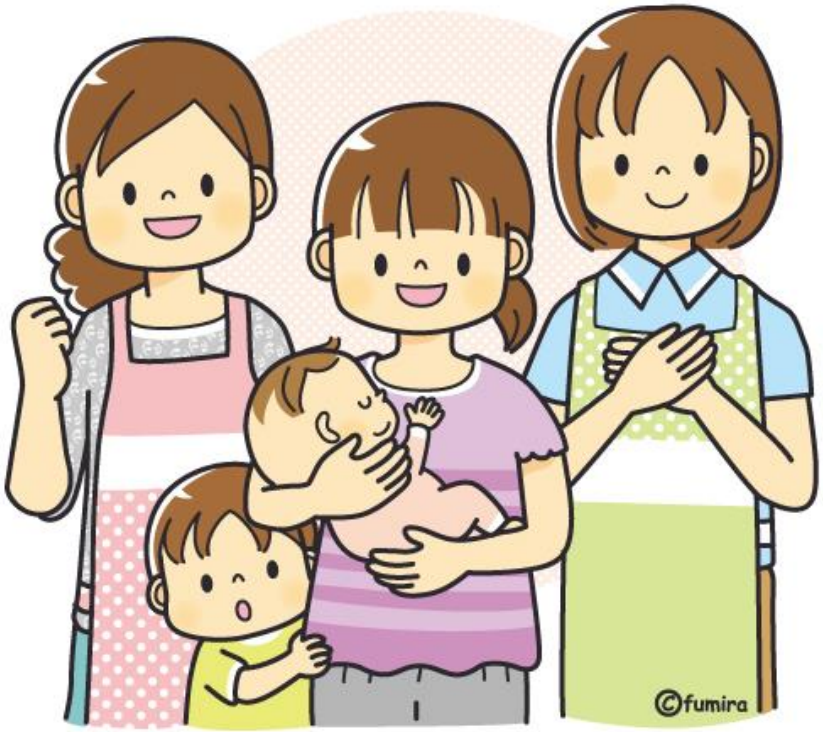
無痛分娩をお考えの方に



大阪暁明館病院　産婦人科

1. 無痛分娩とは？

出産に伴う子宮の収縮（陣痛）や産道の広がりによる痛みは、背中の背髄という神経を通って脳に伝えられます。無痛分娩とは、背髄近くに麻酔薬を少量ずつ注入することで出産の痛みを和らげる方法です。完全に痛みがなくなるわけではありませんが、通常の陣痛よりも軽減することができます。

2. 無痛分娩の方法

当院では硬膜外麻酔による無痛分娩を行っています。背椎の中で硬膜外腔というスペースに細い管（硬膜外カテーテル）を挿入しそこから局所麻酔薬を注入する方法です。

当院では無痛分娩を確実に実施する目的で、分娩予定日前に入院していただき計画分娩をしております。計画分娩のスケジュールより前に陣痛が始まった場合や先に破水してしまった場合には無痛分娩はできず、通常の分娩になりますのであらかじめご了承ください。

3. 無痛分娩を希望された方の分娩の流れ

①外来主治医と相談して入院日を決めます。通常は予定日より少し早め（おおむね 38 週～39 週頃）の月曜日です。

②入院前に麻酔科へ受診し、麻酔科医師より硬膜外麻酔についての説明を受けて頂きます。受診の予約は産婦人科で行います。

③入院当日、麻酔がいつでも開始できるように硬膜外カテーテルを留置します。カテーテルの留置は手術室で麻酔科医師が行います。カテーテル留置後からは、分娩が終了し翌日までシャワー浴をすることができません。

④カテーテル留置後、陣痛誘発を行います。（誘発方法については別紙参照）

⑤陣痛が強くなった時点でカテーテルより麻酔薬を注入し、硬膜外麻酔を開始します。あまりにも早く麻酔を開始すると分娩が停滞しやすいため、分娩の進行が見込まれる時点（子宮口が 3～4cm 開大した時点）で開始する事が多いです。硬膜外麻酔開始時からは水やお茶、ゼリーなどの流動性のあるものの摂取は可としますが固形物は不可とし、点滴を開始します。また、麻酔中はベッド上安静となるためトイレに行くことができません。そのため尿道カテーテルを留置します。

⑥分娩後、処置が終了した時点で硬膜外カテーテルを抜去します。

4. メリット

分娩の痛みを抑えることにより、落ち着いた状態で分娩ができます。また、母体の疲労を軽減し、精神的な余裕を持続することができます。

5. リスク

・分娩遷延：運動神経麻痺により、分娩に時間がかかる場合や吸引分娩の可能性が高くなることが指摘されています。

・血圧低下、徐脈、吐き気：麻酔の影響により低血圧となった場合は、赤ちゃんの状態が悪くなる可能性があるため注意が必要です。

・頭痛：カテーテル挿入時に硬膜に孔が開いてしまった場合、しばらく頭痛が続くことがありますが、通常は安静により軽快します。持続する場合は対処法があります。

・カテーテルの不具合：カテーテルは数日間留置するため、先端の位置が移動したり、微小な血液が詰まることによってうまく麻酔薬が注入できず、効果が得られにくい場合があります。

・その他：発熱、排尿障害、神経障害、誘発剤のリスクなど。

6. 費用と申し込みについて

・無痛分娩を行う場合、通常の入院、分娩費用とは別に約７万円の追加費用（麻酔技術料）が必要となります。また、入院してから分娩までの日数を要する事が多く、平均して約 10 万円（麻酔技術料込）程度の追加料金がかかります。

・無痛分娩をご希望の場合、妊娠 34 週目までにお申し込みください。予約金として５万円を納入いただいた時点で予約が成立となります。